

雇用の拡大など、人口定着が期待されております。

〔龍ヶ崎市〕防災への備え 「防災コンテナと飲料水兼用耐震防火水槽設置」

平成7年1月17日に発生した、阪神淡路大震災の教訓により、防災コンテナを市内小中学校19校に各1基ずつ配置しました。収納数量は300人の人が3日間過ごすことを想定した飲料水・食料・毛布などの生活物資と、避難所を運営する関連資機材が収納されております。防災コンテナの老朽化により雨漏りやドアの腐食が進むなど、今後は空き教室利用についても検討されております。

飲料水兼用耐震防火水槽の設置は、市内3箇所に整備しており、災害時には100トンの飲料水を確保することが出来ます。阪神淡路大震災を契機に早期に取り組むなど、防災に対する危機管理が図られており、給水タンクの購入や、市内13地区に井戸を設置するなど新規事業を積極的に実施しております。

〔千葉市〕焼却ごみ1/3削減への取り組み

今後とも人口の伸びに伴い、ごみの排出量の増加が見込

まれることから、温室効果ガス排出量の削減、環境負荷の低減等に向けた対応が必要とされて、平成24年3月に「一般廃棄物処理基本計画」を改定し、新計画のビジョンのもと27の個別事業を展開しております。ごみ分別スクールの全小学校実施、小学生によるごみ出しチェック隊『ヘラソーズ』への参加など、子どもからの取り組みに力を入れておりました。また可燃ごみの収集回数を週3回から2回へ、古紙・布類の回収を月2回から週1回へ変更するなど、収集体制の見直しにより、ごみ排出量の削減は7万2千トン、21・5%削減されました。職員が知恵を出しながら市民や事業者の協力のもと推進しております。



防災コンテナの設置 龍ヶ崎市



市の食材にこだわった学校給食

追跡調査

〈附帯意見〉

あれはどうなった

このコーナーでは、これまでの議会において議論された事項の中で、その後、議会の意見がどのように市政に反映されているかを調査した結果をお知らせします。

今回は、平成21年度予算審査において、予算審査特別委員会が付した附帯意見への処理状況を紹介します。

あれから3年 地産地消の推進は

〈平成21年度予算審査での附帯意見〉

食の文化、地域の伝統文化等を活用した地産地消を推進されたい。



各分野での地産地消推進に努力

市では、農畜産物の地産地消を推進するため、各分野での取り組みを実施しています。

学校給食においては、市教育委員会との連携により、特別栽培米「ひとめぼれ」や米粉加工品、野菜や牛肉などの市農畜産物を提供する事業を展開しています。特に、市の食材にこだわった「奥州っ子の日」給食での特別献立は児童生徒にも好評となっています。

また、関係団体が連携して地産地消を進めることができるように、管内2つの農協や胆江地方産直施設連絡会などで「奥州市農畜産物利用推進協議会」を平成22年度に組織しました。この団体では、市農畜産物の地域内での消費拡大と首都圏等での販売促進に積極的に取り組んでいます。

前回の議会広報第25号『追跡調査』のコーナーにおいて掲載しました「シックススクール対策のその後」について、「現在はいずれの児童も快適な学習環境のもと、元気に活動しています。」という記述については、改築した真城小学校や、岩谷堂小学校における状況について報告したものです。なお、シックススクールにより化学物質過敏症となった児童生徒は、現在も、定期的に治療を継続しながら、学校生活を送っていることから、今後とも、注意深く対応していく必要があります。